

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第4回研究委員会 議事録

1. 日 時：2013 年 3 月 22 日(金) 10:00～12:20
2. 場 所：株式会社奥村組 東京本社 9 階 902 会議室
3. 出席者：生田，池田，奥村，甲斐，後藤，佐藤，末松，谷下，中須，仲村，久田，
三上，村上(TV)，柳原，山田，山本，荒木(記)
4. 資 料：
 - 資料 4-1 第4回研究委員会 議事次第
 - 資料 4-2 第3回研究委員会 議事録(案)
 - 資料 4-3 研究部会割り付け
 - 資料 4-4 「東日本大震災津波による南三陸町行政区別犠牲者率の分析」
 - 資料 4-5 「避難モデルを用いた特定地区における有効な津波避難計画の検討」
 - 資料 4-6 津波避難実態調査資料収集分析部会 研究方針について【改訂版】
 - 資料 4-7-1 避難シミュレーション Verification マニュアル案
 - 資料 4-7-2 シミュレーション普及小委員会 適用性(Validation)仕様書案
 - 資料 4-7-3 石巻市地図とデータイメージ
 - 資料 4-8-1 2012 年度第3回避難の課題の調査・分析部会(都市避難問題) 議事次第
 - 資料 4-8-2 2012 年度第3回避難の課題の調査・分析部会(都市避難部会) 議事録(案)
 - 資料 4-9 国際交流部会
 - 資料 4-10 委員会 HP
 - 資料 4-11 講演会 開催企画書
5. 議事内容
 - 5.1. 議事確認(仲村委員)
 - ・第3回研究委員会の議事録の確認を行った。
 - 5.2. 新メンバー自己紹介
 - ・谷下委員より資料 4-4 を用いての自己紹介があった。
 - ・生田委員より自己紹介があった。
 - 5.3. 講演「避難モデルを用いた特定地区における有効な津波避難計画の検討」

- ・池田委員から資料 4-5 を題材とした講演があった。
- ・静岡県沼津市での避難シミュレーション検討結果の紹介があった。
- ・以下の質疑があった。
 - ・「津波の時間」はどのような時間か → 地震発生からの時間としている。
 - ・全て避難ビルへの避難か → 高台への避難も可としている。
 - ・避難時の家族や土地柄の繋がり → 考慮していない。
 - ・道路閉塞や火災の考慮は → 考慮していない。
 - ・住民への説明は → これから。現時点では市役所のみ。
 - ・地震の想定は → 内閣府(中央防災会議)発表のものとしている。
 - ・避難者が遅れることがあるのでは → 実際発生している。
 - ・車での避難は → 考慮していない。
 - ・GSP を用いた避難訓練とは → 具体的にはこれから市と話す。
 - ・避難ビル以外への避難手段の検討は → 他にも検討する余地はある。
 - ・昼と夜とで避難場所が変わるのでは → 十分起こりえる。
 - ・民間施設への避難は抵抗があるのでは → 施設によってはある。
 - ・避難ビルのキャパは → 共用部分の面積を一人当割り当てで算出
 - ・備蓄の考慮は → 考慮していない。消防からは細かく分散避難されると救助出来ないと言われている。

5.4. 各部会の中間報告

(1)津波避難実態調査部会

- ・佐藤委員から資料 4-6 に基づき報告があった。
- ・以下の意見、質疑があった。
 - ・(データの HP 掲載について)PDF のみであるが、地震工学会に希望を出せば良いのではないか。
 - ・ワークショップの開催時期が重要では → まず中身を検討していく。
 - ・現地に行く前に準備が必要では
 - ・公開する情報とは調査報告書のことか → 研究者に活用して頂けるデータを公開したい
 - ・データの信頼性を含め、我々での検証が済んだ後公開しても良いのではないかと → 合同調査団の意向も確認した上で検討したい。

(2)シミュレーション普及部会

- ・末松委員、荒木委員より Verification 仕様(資料 4-7-1)、Validation 仕様(資料 4-7-2)の説明があった。
- ・後藤委員長より対象地域(石巻市)の情報と提供データ形式(資料 4-7-3)の説明が

あった。

- ・以下の意見、質疑があった。
 - ・資料内のスケジュールをアクションプランとして良いか → プランとなっているものは存在している。
 - ・講演頂いた池田委員も参画できるか → (シミュレーションは)企業が行っており、そこと相談してみる。
 - ・奥村委員にも検討頂けるか → 検討する。
 - ・山下委員(産総研)の参加は確認されているか → 確認する。
 - ・Validation は再現することになるのか → 完全な再現は難しい。概ね再現できればと思う。
 - ・NHK でやった Bigdata 分析のデータは提供してもらえるのか → もらえない。断られた。
 - ・内閣府で Bigdata 分析を再度やるのではないか。

(3)都市避難部会

- ・久田委員より、資料 4-8-1、資料 4-8-2 による報告があった。
- ・以下の意見、質疑があった。
 - ・スケジュールや成果については今後検討して報告する。
 - ・都市再生安全確保計画との整合性は → 今後検討していく。これから協議会が出来ていく模様。整理をする必要がある。
 - ・報告会において、大阪と名古屋の担当は → 名古屋は廣井委員、大阪は生田委員、京都は小山委員と奥村委員を考えている。

(4)国際交流部会

- ・村上委員より、資料 4-9 による報告があった。
- ・以下の意見、質疑があった。
 - ・国際交流部会では低頻度・大災害の共有と提供をしていく。
 - ・地震だけに拘らず災害の種類を広げたらどうか → それぞれにご専門の先生がいらっしゃる。
 - ・委員の守備範囲で調査・収集すれば良いのでは。

5.5. 来年度の計画、予算

- ・今年度予算について山本幹事長より説明があった。
- ・データのサーバー費用と Web 会議の機材を検討した。データのサーバーは今後データ量が増えた段階で契約を考えることとし、Web 会議の機材は資産となり使えないため、執行が進まず余ってしまっている。

- ・次年度計画と予算について後藤委員長より説明があった。
 - ・3/25 に予算とアクションプランを提出する必要がある。
 - ・来年度の活動・成果としては以下のものを考えている。
 - ・報告会・シンポジウムの開催
 - ・報告書の作成
 - ・論文集・特集号の編纂
 - ・年次大会での特別セッション
 - ・ホームページの開設
 - ・報告会として資料 4-11 を企画している。
 - ・毎年横浜で開催される震災対策技術展が良いのではないかと考えている。
 - ・難しい場合は独自開催を検討する。
 - ・論文集特集号については、この機会に出したいという内容で各研究者に委ねたい。
 - ・オーガナイズドセッションについては昨年同様と考えている。
 - ・報告書については、講演会の配付資料が報告書となっても良いのでは。ただし、PPT だけではなく、各部会で一般向けにまとめてもらいたい。
 - ・スケジュールとしては
 - ・オーガナイズドセッションの準備 7 月～8 月
 - ・論文集は夏ぐらいから準備(※査読も必要)
 - ・ホームページは随時充実させていく
 - ・計画と担当を決めて進める。
- ・次年度予算は、調査部会の旅費や報告会の場所代、震災対策技術展の出展料などで考える。独自開催の場合でも 3 時間程度は時間をとってやりたい。
- ・震災対策技術展は地震工学会からお金が出るかも知れない。
- ・論文集は既存の論文をテーマに絞り、査読論文にまとめる。
- ・地震工学会の論文となる。企画書を出せば、5 編程度でも十分可能。
- ・各部会で論文報告をまとめる。
- ・論文集の編集担当が必要。
- ・オーガナイズドセッションの担当は市古委員を考えている。
- ・報告会の担当はこれから。論文集の担当もメールで相談する。

5.6. 委員会HP の状況

- ・佐藤幹事より、資料 4-10 に基づきHP の中間報告があった。

5.7. 次回の研究委員会

- ・平成 25 年 5 月くらいを目処にアンケートで日程調整を行う。

以上